

令和4年度 江戸川区立平井東小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	◎考える子ども ○助け合う子ども ○じょうぶな子ども ○進んで取り組む子ども	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	◎子供たちが「生き生きとした表情で生活する」学校 ～笑顔で登校、笑顔で下校～ ◎人にやさしく 自分につよひがしっ子 ◎「明るく 元気な」ひがしっ子 ◎児童一人一人の心に寄り添う教師 ◎自身も成長し続ける教師
--------	--	----------------------------	---

前年度までの学校教育上の成果と課題	<成果>○人権意識の定着 ○基礎学力の定着と学習意欲・思考力の向上 ○校内研究によるICT機器活用の授業力向上 ○学校図書館を活用した授業の改善 ○休み時間の運動遊びの定着 ○ホームページによる学校情報の積極的な発信 ○荒川学習の計画的な実施 <課題>○自ら学ぶ力・思考力のさらなる育成 ○ICT機器(児童用タブレットを含む)活用のさらなる授業方法の工夫 ○特別支援教育充実 ○運動の日常化
-------------------	---

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	評価	コメント		
いさきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習授業の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・各教科等の連携教育プログラムによる連携の充実 ・「江戸川っ子Study week」を中心にタブレット端末を用いたオリジナル学習の推進、自主学習や家庭学習の習慣化	・水チャレ：毎週水曜日10分間 →学年で統一した内容を実施 ・学力向上：月1回 →3年生以上の学級に職員を1名加配し、個に応じた指導を行う。 ・学期による放課後補習教室 →各学年週1回、年間合計150回	・東京ベレーンクドリ診断シート →新学期+3Pアップ ・タブレット端末を用いた学習(ライブリアドバンス) →「江戸川っ子Study week！」期間に実施率80パーセント	A	B	A	・タブレットを使うことでより一人一人の実態に合った学習ができると思う。活用に期待している。 ・「江戸川っ子Study week!」の学習効果に期待している。 ・どの教科でも先生方の工夫が見られる授業を行っている。	・タブレットを活用し、児童が主体的に学習できるよう授業の改善を行っていく。校内研究等で個別支援が必要な児童にも有効な学習支援や指導法の研究を進めていく。 ・「水チャレ」や「江戸川っ子Study week」等の指導内容に系統性をもたせるようにする。 ・小中連携を生かし、中学校の指導につながるような指導内容の工夫を継続して行う。	
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上 ・全校で縄跳びやマラソンに取り組み期間を設定し、運動に親しむ環境の作成	・パワーアップチーズデイ ・授業改善：学期1回 ・全校で行う冬の季節的運動(縄跳び、マラソン)	・パワーアップチーズデイ →毎週火曜日(週1回)、合計で年間35回 ・実施場所と取り組み内容を学年でローテーション ・授業改善：学期1回 ・縄跳び、マラソン →それぞれ2週間ずつ実施	B	B	B	・成長期の子供たちには運動遊びが大変重要だと考える。毎週継続して取り組める環境はとて、とても良いと感じる。 ・運動量を確保しようとする中、コロナ禍の中でも工夫した授業を行っている。	・「パワーアップチーズデイ」における運動遊びの情報の収集、学年に応じた運動遊びの実践例の収集を行い、系統性をもたせながら様々な運動遊びに触れられるようにする。 ・体育の時間の指導内容と運動遊びを連携させる。また、家庭で運動を進んで行うことができるよう啓発する。	
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実 ・読書科への活用、資料の収集の仕方や記録の取方の指導、自己の考えをまとめる表現する力の指導、雑誌読みや単元授業との関係付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、巡回司書と連携した学校図書館を使った授業の充実	・全学年年間授業 →読書活動として各学年年間35時間 ・読み聞かせ →ボランティア月2回 ・探究的学習 →全学年学期1単元 ・巡回司書 →年間2回	・年間読書量 →1・2年：100冊、3・4年：8000ページ、5・6年：10000ページ ・巡回司書と連携した授業 →学期に1単元	B	B	B	・児童が自ら課題を設定することができる。図書を用いた情報収集・活用と、得た情報を再構成して表現することについて今後も指導が必要である。 ・巡回司書と連携した各教科における学校図書館の活用が今後の課題である。	・学校に来るときれいに整備された図書室に安心する。読書を通して豊かな心が育つよう、これからも取り組んでほしい。 ・巡回司書との連携に期待している。	・小松川図書館やPTA・ボランティアと連携した使いやすい学校図書館の維持と計画的な利用の継続を行う。 ・巡回司書と連携した各教科における学校図書館の活用を計画的に行う。 ・読書活動とICT活用を関連させた授業の展開を工夫する。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	・校内研究の成果活用と実践 ・ALTとの打ち合わせ方法の改善 ・年間授業 →3・4年35時間、5・6年70時間	・年間授業 →3・4年35時間、5・6年70時間	B	B	B	・楽しくて外国語活動を行っていることが分かる。ALTとの先生も積極的に子供たちに関わっている。	・年間指導計画に基づいた実施と改善、ALTを生かした授業の実践を図る。	
特別支援教育の推進	共生社会の実現に向けた教育の推進	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・メンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・特別支援教室専門員による各学級の支援 →適宜 ・特別支援校内委員会 ・特別支援校内委員会 →月1回(巡回指導教員、スクールカウンセラーと共に) ・副籍交流の実施 →各学年学期2回	・特別支援教室専門員による各学級の支援 →適宜 ・特別支援校内委員会 →月1回(巡回指導教員、スクールカウンセラーと共に) ・副籍交流の実施 →各学年学期2回	A	B	A	・家庭の状況も変化してきている。学校では多くの専門的な目で子供たちを見守ってほしい。 ・SCや専門員が連携して子供たちの様子を見守っていることが分かる。	・心理士やSC、巡回指導員と連携した特別支援全体会の実施と進行を工夫していく。 ・年度当初に副籍交流を行う年間指導計画を立て、児童同士の交流ができるよう指導する。	
	子供たちの健全育成	・いじめ、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・メンカレッジルームやサポーターチームや生活指導連絡協議会の活用	・児童に向けたアンケート、面接の実施 →学期に1回、年間3回実施 ・生活指導全体会・研修会の実施 →学期に1回、年間3回実施	・いじめ、不登校の早期発見 ・解消件数の増加(早期解消を目指す)	A	A	A	・いじめの発生やアンケートでの早期発見と早期対応を共通理解で行っている。小さな問題も見逃すことなく、真摯に対応できている。 ・不登校傾向のある児童には家庭との連携を細かく行い、支援する体制ができていく。 ・個別支援が必要な児童については、生活指導サポーターと状況共通理解することができている。	・アンケートの実施に伴う、児童の聞き取り・面接を継続していく。 ・いじめの未然防止と早期対応の校内体制を継続していく。 ・個別支援が必要な児童についての共通理解・共通対応できるように情報共有を行う。	
学校と家庭、地域、関係機関との連携強化	学校関係者評価の充実	・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施・改善	・学校行事(運動会・道徳地区公開講座等)への参観 ・アンケートでの評価の実施 ・学校公開等における授業の参観	・学校行事等への参観 →運動会・道徳地区公開講座・学習発表会など学期に1度 ・アンケートでの評価の実施 →行事や学校公開後にアンケートを実施 ・土曜公開→年間1回(平日を含む)	B	B	A	・感染対策を講じた上で、学校行事を参観していただくことができた。一方で、規模を縮小するなど以前とは違う形での実施となっている。 ・アンケートを踏まえて次の行事に生かすことができた。	・学校だよりの内容などから、学校の様子や校長の考えがよく伝わる。 ・HPの更新もよくされており、学校の様子がよく分かる。	・児童や教職員、家庭が互いに意欲をもって参加できる行事の計画を行う。 ・行事の参観やアンケートは今後も継続して行っていく。
	「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・勤務時間の遵守 ・会議等の時間の短縮	・勤務時間 →定額10時間以内 ・会議時間の短縮 →1会議につき30分から45分を目安に行う	B	B	B	・様々な中で工夫しながら時間を有効に使うと、するよい心がけだと思ふ。 ・退勤時間を守ることができるように、今後も努力してほしい。	・校務の整理や校務分掌の改善を行っていく。 ・会議等の議題の精選、行事の見直しを年度当初に行う。 ・退勤時間を意識した働き方についての啓発を継続する。	
特色ある教育の展開	環境教育の推進	・荒川環境学習を活用した課題発見・解決・発信力等を育てる環境教育の推進	・年間計画に基づき荒川環境学習、外部講師の活用 →3年生以上の実施	・環境学習の実施 →3年生以上各学期に1度以上 →「環境について意識を生かして生活した」(児童アンケート)7割	B	B	B	・SDGsはこれからの教育の中でも重要な視点なので、様々な工夫をしてほしい。	・SDGsと関連させた年間指導計画の作成、改善を行っていく。 ・児童が進んで発信できるよう活動の工夫を講師と連携して行う。	
	音楽的活動の充実	・達成感を味わえる課外金管バンドクラブの活動の実施	・感染対策下での活動 →週1回、教室を分けて実施 ・保護者への協力依頼	・感染対策下での活動 →週1回、教室を分けて実施 →適宜	B	B	B	・近況下では仕方がないが、伝統的金管バンドの活躍を楽しみにしている。	・伝統を基盤とした新たな活動方法の工夫や発表の場を設定できるように計画する。	